

道徳科授業づくり チェックシートの使い方

1 学習指導案を作り終えたら、全ての項目をチェックしよう。

一人1台の学習者用端末の活用

2 チェックが入らなかった項目は、学習指導案に追記しよう。

<input type="checkbox"/>	発問の工夫 自分のこととして考えるために、導入は、中心発問の場面の状況のような生活経験を問う発問になっていますか。
<input type="checkbox"/>	情報共有の工夫 児童と指導者が情報共有するために、他の人の考えを閲覧できるようになっていますか。
<input type="checkbox"/>	児童が自分の考えと似ているところや違うところを比べ、学ぶことができるために、指導者の指示を、学習指導案に明記しましたか。
<input type="checkbox"/>	話し合いの工夫 話し合いを深めるために、学習指導案に示した予想される児童の反応から指名の順を例のように考えましたか。 (△⇒○⇒◎の順に指名) (例)△ 友達とはこれからも仲良くしたい。 ○ きちんと伝えれば分かってくれる。 ◎ これからも互いにより関係を築きたい。
<input type="checkbox"/>	指導者が板書を活用して、児童から出された考えを全体で共有するために、分かりやすい板書計画になっていますか。
<input type="checkbox"/>	フィードバックの工夫 予想される児童の反応に応じて、適切に認め・励ますために、ねらいとする道徳的価値に係る状況を記入した座席表等を用意しましたか。
<input type="checkbox"/>	予想される児童の反応に応じた教師の言葉掛けは、児童を励ましつつ支援できる内容を考え、学習指導案に明記しましたか。 (「新しい考えに気付くことができたね。」「前の道徳科の時と比べてみると、自分の考えに変わったところはあった?」など)

- 全ての項目にチェックが入ったら、端末を活用した道徳科が目指す授業の準備が整ったことになります。
- 各工夫は、授業モデル例の内容全てに関連しています。特に関連のある学習活動については、3ページに矢印で示しました。
- 端末を活用して、自己の生き方についての考えを深める授業を実践してみてください。

【道徳科授業づくりチェックシート】

<チェックシートを使う目的>

本チェックシートを御自身が作った学習指導案と照らし合わせながらチェックすることで、一人1台の学習者用端末を活用した道徳科が目指す授業に近付けることができます。

発問の工夫

自分のこととして考えるために、導入は、中心発問の場面の状況のような生活経験を問う発問になっていますか。

情報共有の工夫

児童と指導者が情報共有するために、他の人の考えを閲覧できるようにになっていますか。

児童が自分の考えと似ているところや違うところを比べ、学ぶことができるために、指導者の指示を、学習指導案に明記しましたか。

話合いの工夫

話合いを深めるために、学習指導案に示した予想される児童の反応から指名の順を例のように考えましたか。
 (△⇒○⇒◎の順に指名)
 (例) △ 友達とはこれからも仲良くしたい。
 ○ きちんと伝えれば分かってくれる。
 ◎ これからも互いによりよい関係を築きたい。

指導者が板書を活用して、児童から出された考えを全体で共有するために、分かりやすい板書計画になっていますか。

フィードバックの工夫

予想される児童の反応に応じて、適切に認め・励ますために、ねらいとする道徳的価値に係る状況を記入した座席表等を用意しましたか。

予想される児童の反応に応じた教師の言葉掛けは、児童を励ましつつ支援できる内容を考え、学習指導案に明記しましたか。
 (「新しい考えに気付くことができたね。」「前の道徳科の時と比べてみると、自分の考えが変わったところはあった？」など)

上の四段階の工夫は指導の一例であり、全ての授業で活用できるとは限りません。

第4学年での実践を例とした授業モデル例 (主題名 信頼のきずな 教材名「絵葉書と切手」(友情、信頼))

【主題名】 信頼のきずな
 【ねらい】 料金不足を伝えることを決めたひろ子の思いについて考えることを通して、友達を信頼しようとすることが大切であることに気づき、友達との信頼のきずなを大切にしようとする道徳的心情を育む。

	学習活動 (○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応)	◆指導上の留意点 □評価
導入	1 これまでの自分の生活経験を振り返る。(5分) ○これまでに友達だからこそ言っていたことや、友達だからこそ言えなかったことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 ・友達により方法を教えたら、感謝されてうれしかった。 ・友達を大切にしたいと、言いたいことが言えなくてすっきりしなかったことがある。	◆友達に対する悩みを共有することで、内容項目「友情」に迫れるようにする。 ◆自分の体験と重ね合わせ、中心発問と結び付け、友情に対して自分のこととして捉えられるようにする。
展開	2 範読を聞き、自分のこととして考える。(5分) ○愛子に料金不足を知らせるべきかどうか、ひろ子が悩んだのはどんな思いからでしょうか。 ・自分だったら、間違えたままにしてほしくない。	◆導入の発問や問い返しと関連付け、自分のこととなるように問い返しをしながら自分の考えを深めていく。他の児童の発言を聞きながら、自分のこととして深められるようにする。
	3 中心発問について端末に書き込む。(5分) ◎一人になったひろ子はどのようなことを考えたのでしょうか。 ・愛子とこれからも仲良くしたい。 ・きちんと伝えれば分かってくれる。 ・母も正しい、兄も正しい。愛子にはどっちがよいのかな。 ・正しいことを言って愛子は嫌な思いをしないのだろうか。 ・友情が壊れないか心配。	◆自分のこととして捉えられるように、「自分がひろ子だったらどんなことを考えているのか。」等、言葉掛けをする。 ◆一人1台の学習者用端末を用いて、相互の考えを共有する。
	4 一人1台の学習者用端末を用いて、相互の考えを共有する。(5分) ○書き込みが終わった人から友達の考えを見て、似た意見を探しましょう。	◆入力が終わった児童から、自分の考えと似ている考えを探させ、他の児童の意見にも目を向けさせる。
	5 友達の考えを聞き、比べる。(13分) ○自分と友達の考えの似ているところや違うところを比べて話を聞き合しましょう。 ・愛子とこれからも仲良くしたい。 ・きちんと伝えれば分かってくれる。 ・母も正しい、兄も正しい。愛子にはどっちがよいのかな。 ・正しいことを言って愛子は嫌な思いをしないのだろうか。 ・友情が壊れないか心配。	◆子供たちは単独の投稿チャット機能を活用して、友達のよい考えについて書き込みをする。 ◆まずは挙手で発言を促し、その後、様々な視点からの意見を取り上げるため、指導者が意図的に指名する。指名の順は△⇒○⇒◎にする。 (例) △ 友達とはこれからも仲良くしたい。 ○ きちんと伝えれば分かってくれる。 ◎ これからも互いによりよい関係を築きたい。 ◆話合いで気付いたことや考えたことを書き、考えが深まるようにする。 ◆ねらいについて価値付け、全体に広げる。 ◆指導者が板書を活用して、児童の思考を整理する。
	6 自分のことについて深く考える。(10分) ○今日の授業を通して、あなたはひろ子からどんなことを学びましたか。 ・友達とのよい関係を考えて、お互い信頼できるとよいことに気付いた。 ・友達に大事なことをしっかり伝え、お互い成長できることが大切だと考えた。 ・お互いに高め合える関係になりたい。 ・今まで正しいことを伝えてこられなかったから、きちんと伝えられる関係の大切さが分かった。	◆机間指導で「友達とのよりよい関係の在り方」に気付いた児童への価値付け(フィードバック)を行い、発表を促す。児童からの発表が難しい場合は、匿名で指導者から紹介してよいか尋ねる。 □料金不足を伝えることを決めたひろ子の思いについて考えることを通して、友達を信頼しようとすることが大切であることに気づき、友達との信頼のきずなを大切にしようとする。
終末	7 指導者の説話を聞く。(2分)	◆友達を心から信頼し、人間関係を深めていることについて、説話をする。

一人1台の学習者用端末の活用

【道徳科授業づくりチェックシート】

＜チェックシートを使う目的＞

本チェックシートを御自身が作った学習指導案と照らし合わせながらチェックすることで、一人1台の学習者用端末を活用した道徳科が目指す授業に近付けることができます。

発問の工夫と授業モデル例の学習活動との関連

発問の工夫

自分のこととして考えるために、導入は、中心発問の場面の状況のような生活経験を問う発問になっていますか。

情報共有の工夫と授業モデル例の学習活動との関連

情報共有の工夫

児童と指導者が情報共有するために、他の人の考えを閲覧できるようにになっていますか。

児童が自分の考えと似ているところや違うところを比べ、学ぶことができるために、指導者の指示を、学習指導案に明記しましたか。

話し合いの工夫と授業モデル例の学習活動との関連

話し合いの工夫

話し合いを深めるために、学習指導案に示した予想される児童の反応から指名の順を例のように考えましたか。

(△⇒○⇒◎の順に指名)
 (例) △ 友達とはこれからも仲良くしたい。
 ○ きちんと伝えれば分かってくれる。
 ◎ これからも互いによりよい関係を築きたい。

指導者が板書を活用して、児童から出された考えを全体で共有するために、分かりやすい板書計画になっていますか。

フィードバックの工夫と授業モデル例の学習活動との関連

フィードバックの工夫

予想される児童の反応に応じて、適切に認め・励ますために、ねらいとする道徳的価値に係る状況を記入した座席表等を用意しましたか。

予想される児童の反応に応じた教師の言葉掛けは、児童を励ましつつ支援できる内容を考え、学習指導案に明記しましたか。
 (「新しい考えに気付くことができたね。」「前の道徳科の時と比べてみると、自分の考えが変わったところはあった?」など)

上の四段階の工夫は指導の一例であり、全ての授業で活用できるとは限りません。

第4学年での実践を例とした授業モデル例 (主題名 信頼のきずな 教材名「絵葉書と切手」(友情、信頼))

【主題名】 信頼のきずな

【ねらい】 料金不足を伝えることを決めたひろ子の思いについて考えることを通して、友達を信頼しようとすることが大切であることに気づき、友達との信頼のきずなを大切にしようとする道徳的心情を育む。

	学習活動 (○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応)	指導上の留意点・評価
導入	1 これまでの自分の生活経験を振り返る。(5分) ○これまでに友達だからこそ言ってあげたことや、友達だからこそ言えなかったことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 ・友達により方法を教えたら、感謝されてうれしかった。 ・友達を大切にしたい、言いたいことが言えなくてすっきりしなかったことがある。	◆生活経験と重ねましょう。 ◆友達に対する悩みを共有することで、内容項目「友情」に迫れるようにする。 ◆自分の体験と重ね合わせ、中心発問と結び付け、友情に対して自分のこととして捉えられるようにする。
展開	2 範読を聞き、自分のこととして考える。(5分) ○愛子に料金不足を知らせるべきかどうか、ひろ子が悩んだのはどんな思いからでしょうか。 ・自分だったら、間違えたままにしてほしくない。	◆導入の発問や問い返しと関連付け、自分のこととなるように問い返しをしながら自分の考えを深めていく。他の児童の発言を聞きながら、自分のこととして深められるようにする。
	3 中心発問について端末に書き込む。(5分) ◎一人になったひろ子はどのようなことを考えたのでしょうか。 ・愛子とこれからも仲良しでいたい。 ・きちんと伝えれば分かってくれる。 ・母も正しい、兄も正しい。愛子にはどっちがよいのかな。 ・正しいことを言って愛子は嫌な思いをしないのだろうか。 ・友情が壊れないか心配。	◆ねらいに迫る中心発問の場面にしましょう。 ◆自分のこととして捉えられるように、「自分がひろ子だったらどんなことを考えているのか。」等、言葉掛けをする。 ◆一人1台の学習者用端末を用いて、相互の考えを共有する。
	4 一人1台の学習者用端末を用いて、相互の考えを共有する。(5分) ○書き込みが終わった人から友達の考えを見て、似た意見を探しましょう。	◆情報共有して学び合えるようにしましょう。 ◆入力が終わった児童から、自分の考えと似ている考えを探させ、他の児童の意見にも目を向けさせる。
	5 友達の考えを聞き、比べる。(13分) ○自分と友達の考えの似ているところや違うところを比べて話を聞き合しましょう。 ・愛子とこれからも仲良しでいたい。 ・きちんと伝えれば分かってくれる。 ・母も正しい、兄も正しい。愛子にはどっちがよいのかな。 ・正しいことを言って愛子は嫌な思いをしないのだろうか。 ・友情が壊れないか心配。	◆指名の順番を考えましょう。 ◆児童の反応を予想しましょう。 ◆子供たちは単独の投稿チャット機能を活用して、友達のよい考えについて書き込みをする。 ◆まずは挙手で発言を促し、その後、様々な視点からの意見を取り上げるため、指導者が意図的に指名する。指名の順は△⇒○⇒◎にする。 (例) △ 友達とはこれからも仲良くしたい。 ○ きちんと伝えれば分かってくれる。 ◎ これからも互いによりよい関係を築きたい。 ◆話し合いで気付いたことや考えたことを書き、考えが深まるようにする。 ◆ねらいについて価値付け、全体に広げる。 ◆指導者が板書を活用して、児童の思考を整理する。
	6 自分のことについて深く考える。(10分) ○今日の授業を通して、あなたはひろ子からどんなことを学びましたか。 ・友達とのよい関係を考えて、お互い信頼できるとよいことに気付いた。 ・友達に大事なことをしっかり伝え、お互い成長できることが大切だと考えた。 ・お互いに高め合える関係になりたい。 ・今まで正しいことを伝えてこられなかったから、きちんと伝えられる関係の大切さが分かった。	◆児童を支援できる言葉掛けを考えましょう。 ◆机間指導で「友達とのよりよい関係の在り方」に気付いた児童への価値付け(フィードバック)を行い、発表を促す。児童からの発表が難しい場合は、匿名で指導者から紹介してよいか尋ねる。 □料金不足を伝えることを決めたひろ子の思いについて考えることを通して、友達を信頼しようとすることが大切であることに気づき、友達との信頼のきずなを大切にしようとする。
終末	7 指導者の説話を聞く。(2分)	◆友達を心から信頼し、人間関係を深めていることについて、説話をする。

一人1台の学習者用端末の活用